

第三次

御杖村長期総合計画

ダイジェスト版

心やすらぎ
住みよしの郷
御杖

「みつつの杖」で魔法をかけるむらづくり



つえみちゃん

1 総合計画ってなに？

Q1 総合計画ってなに？

総合計画は、村の将来像やむらづくりの方針を示したものです。

Q2 なんのためにつくるの？

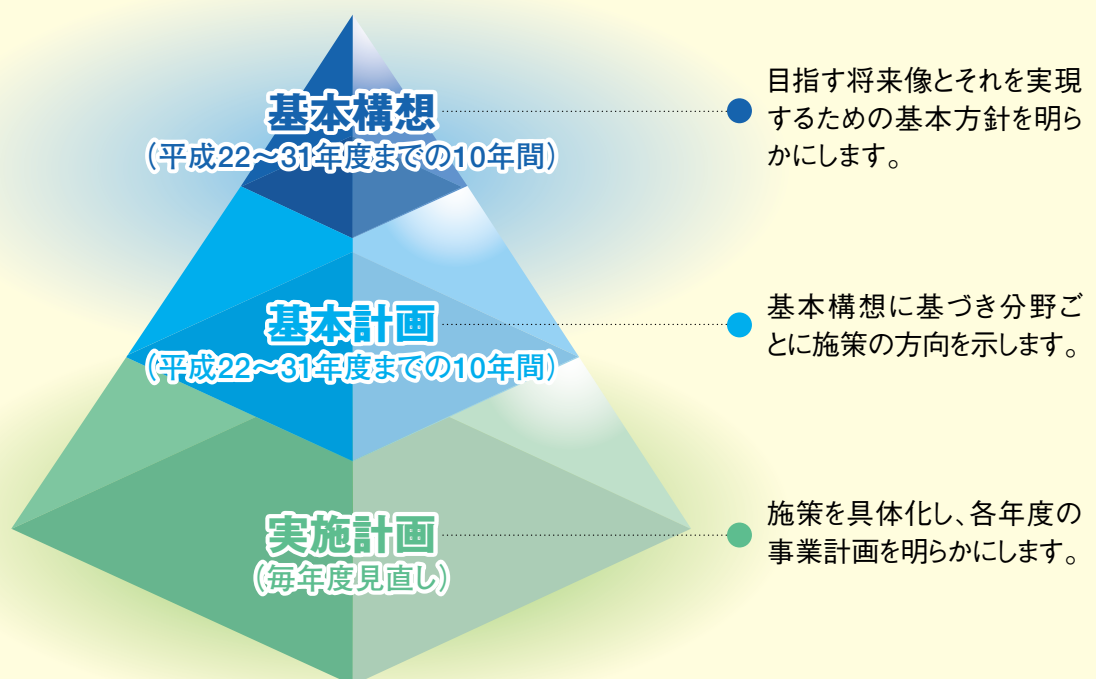
総合計画をつくる目的は、

- 1 地域の課題のすべてを行政主体で対応することは、財政的にも人的にも限界があることから、村民と行政の役割分担のあり方を考え直す機会とします。
- 2 市町村合併が進む中で、自主・自律を基本としながら創意工夫による責任あるむらづくりを進めるため、新たな視点によるむらづくりの指針とします。

御杖村では、地域の課題を行政ばかりでなく村民との協働により解決し、安心して暮らせる村であり続けるために、10年後の御杖村のあるべき姿(将来像)を考え、その実現に向けてむらづくりを進めていくための総合的な指針として、第三次御杖村長期総合計画を策定しました。

Q3 計画の構成や期間はどうなっているの？

この計画は、「基本構想」と「基本計画」及び、別に定める「実施計画」から構成されています。



2 基本構想 (こんなむらを目指します)

1 むらづくりの将来像

むらづくりの将来像とは、村民・地域・企業・行政がともにむらづくりを進めていく上で、共通にイメージできる方向を示したものの、村の個性が表現され、将来に向けたむらづくりの指針としての意味を込めたものです。本計画では、「杖」を活用したむらづくりを展開していくため、御杖村が目指す将来像を次のとおり設定します。

心やすらぐ" 住みよしの郷 御杖

—「みっつの杖」で魔法をかけるむらづくり—

2 むらづくりのテーマ

むらづくりのテーマとは、将来像の達成のために必要となる基本的な考え方で、本計画では、「3つの杖」に例えて設定しています。



村民に安心を
与え、生活を支える

やすらぎの杖

福祉・保健・医療の取組みにより、健やかでやすらぎのある心豊かなむらづくりを推進します。

自然環境の保全と循環型社会の構築により自然と共生したむらづくりを推進します。



訪れる人をもてなし、
村民に夢を見せる

魅力の杖

多様な産業、観光・交流機会の
あるむらづくりを推進します。

歴史・文化振興とスポーツ活動
の充実を図り、いきいきとした暮らしを育むむらづくりを推進します。



村民と行政の
協働を促す

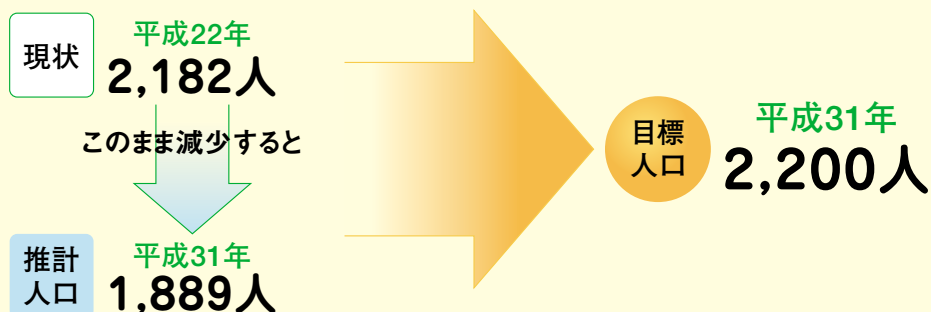
自律の杖

学校教育や社会教育や多様な
交流活動など人づくりや活動の
場づくりを推進します。

村民と協働しながら、効率的・
効果的な村政運営を図り、持続
可能な村政運営を推進します。

3 将来目標人口の設定

これまでの人口の推移や大規模な住宅開発等の予定もないことから、人口減少は避けられないと考えられますが、生活環境の整備や健康・福祉施策の充実、観光や農林業等産業振興などにより、人口減少を抑制し、現状の規模を維持し、定住人口の目標を2,200人とします。



3 基本計画 (むらづくりの5つの目標)

むらづくりの 目標1

豊かな森に抱かれた やすらぎ憩い空間づくり

1-1 みつえの自然の保全と 循環型社会の構築

- 村民自らが自然環境を守る意識の醸成を図るとともに、地球温暖化防止に向けたエコライフを推奨します。
- 循環型社会を目指し、環境学習やごみの減量化・リサイクル等の啓発活動、環境美化活動を推進します。
- 災害防止の観点からも村土保全に努めます。

施策の項目 ○自然環境の保全 ○循環型社会の構築
○村土保全の充実

1-2 みんなが快適に暮らせる 生活環境基盤の整備

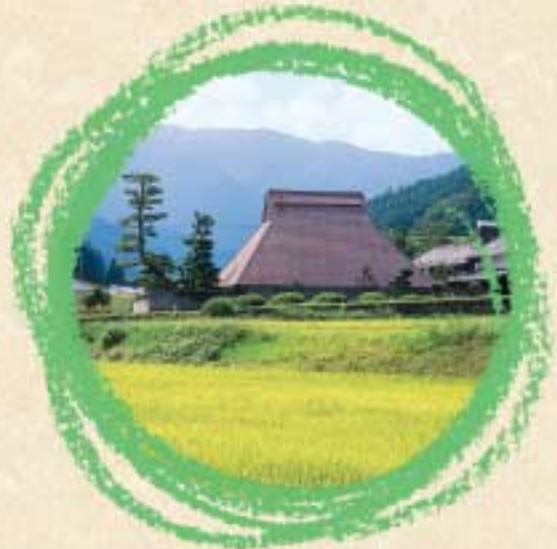
- 誰もが快適な生活を送るため、合併処理浄化槽の設置促進、簡易水道の維持管理を進めます。
- 住宅環境や道路環境、情報基盤などの生活基盤の整備に努めます。

施策の項目 ○上下水道の充実 ○住宅環境の整備
○道路環境の整備 ○公共交通の確保
○情報基盤の整備

1-3 安心・安全な暮らしを 守る体制の整備

- 安心・安全な暮らしを保障するため、防災・消防・救急体制の整備や治山・治水事業、防犯・交通安全対策など、地域を守る体制の整備を図ります。
- 村民一人ひとりの防災・交通安全・防犯・消費者保護などに対する意識の高揚に努めます。

施策の項目 ○消防・防災の充実
○交通安全・防犯体制・消費者保護の充実



むらづくりの 目標2

“地域の杖”で支える 村民主体の元気なむらづくり

2-1 いつまでもいきいきと暮らせる 福祉の村の実現

- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、介護予防対策や介護サービスの充実、高齢者の知識や経験・技能を活かした交流の機会をつくります。
- 障害者の自立と社会参加を促進するため、福祉サービスや交流事業などの充実を図ります。
- 子どもたちが明るく健やかに育つことができ、安心して子どもを産み育てられるよう、子育て環境の充実に努めます。
- 支え合い・助け合いの心の醸成や、ノーマライゼーションの理念の普及、あらゆる施設のユニバーサルデザインの普及・啓発に努めます。

施策の項目 ○高齢者福祉の充実 ○障害者福祉の充実
○児童福祉の充実 ○地域福祉の推進

2-2 村民の健康づくりと 保健・医療の充実

- 村民が主体的に健康な心と体づくりに取り組むことができるよう、各種健(検)診事業の充実、各種保健事業の充実を図ります。
- 医療ニーズに対応できるよう、広域的な関係機関との連携を強化し、各種医療費制度や地域医療体制の充実を図ります。
- 生涯を通じて心と身体の健康を保持・増進するため、スポーツ・レクリエーションの充実を図ります。

施策の項目 ○保健・医療の充実
○スポーツ・レクリエーションの推進



むらづくりの
目標3

“みつえ力”を創出・発信する 地域づくり

3-1 みつえの魅力あふれる産業の振興

- 高付加価値農林加工品の生産、農林製品のブランド価値の向上など、生産基盤整備や営農支援体制の整備を推進し、農林業経営の強化に努めます。
- 地域の特性に応じた商工業の振興や、特色ある産業の振興を図ります。

施策の項目 ○農業の振興 ○林業の振興
○商工業の振興

3-2 “みつえブランド”の観光戦略の推進

- 自然、歴史・文化、特産物など多様な観光資源を活かすとともに、地域産業を活用した滞在・体験型観光を推進します。
- 全国に発信することができる地域ブランドの創出を図るとともに、効果的なPRを展開します。

施策の項目 ○観光施策の推進



訪れる人をもてなし、
村民に夢を見せる
魅力の杖

心やすらぐ 住みよしの郷 御杖

—「みつつの杖」で魔法をかけるむらづくり—



村民に安心を与え、
生活を支える
やすらぎの杖

村民と行政の
協働を促す
自律の杖

むらづくりの
目標4

みつえを次世代に つなげるための人づくり

4-1 次世代への“人財”を育てる 教育の充実

- 子どもが心身ともに豊かでたくましく成長できるよう、特色ある学校づくりを推進するとともに、家庭・学校・地域が一体となった教育体制の整備を推進します。
- 生涯を通じて学ぶことができる環境づくりにより、いつまでも生きがいを持って暮らすことができる人を増やすとともに、地域の“人財”育成に努め、むらづくりの担い手づくりを図ります。

施策の
項目 ○学校教育の充実
○生涯学習の充実

4-2 地域の歴史・文化の振興

- 伝統的な歴史・文化を地域で継承するとともに、貴重な文化財を保護し、次世代に伝えます。

施策の
項目 ○歴史・文化の継承



4-3 誰にもやさしい差別のないむらづくり

- すべての人は生まれながらにして平等であることを基本とした人権施策を推進します。
- 男女共同参画等も含めたあらゆる人に平等でやさしいむらづくりを推進します。

施策の
項目 ○人権施策の充実
○男女共同参画の推進

むらづくりの
目標5

村民と行政の協働による 自主・自律のむらづくり

5-1 村民主体による協働のむらづくり

- 村民の誰もがむらづくりの主役になれるよう、情報共有しながら、村民と行政が一体となったむらづくりを行う体制の整備を推進します。

施策の
項目 ○村民参加の促進
○コミュニティ活動の促進

5-2 自主・自律を実現するむらづくり

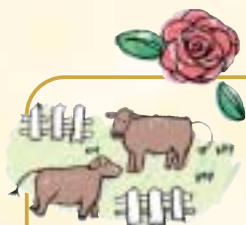
- 多様化する行政課題に対応した、行政サービスの提供を行うとともに、地方分権の動向を踏まえながら特色のある行財政運営に努め、自主・自律のむらづくりを推進します。

施策の
項目 ○特色のある行財政運営の推進



～みつえに住もうよ～

御杖村では、この計画の推進を通じて、定住促進を目指しています。
ここでは、そんな御杖村の定住促進を物語に載せてご紹介します。



ある日、若い夫婦と子どもの3人家族が御杖村に引っ越してきました。夫の通勤には車で1時間以上かかりますが、御杖村の豊かな自然の中で暮らし、子育てをしてみたいと思ったのです。

都会で生まれ育った家族にとって、御杖村での生活は新鮮なものでした。はじめは他所から来た「お客さん」のように接していた村民たちも、清掃活動や常会活動、地域の祭りなどのイベントに積極的に参加する家族をすぐに受け入れてくれました。都会で暮らしていた頃には近所付き合いなどほとんど無かったため、戸惑いながらも楽しんで参加していたのです。

心配していた田舎暮らしもそれほど不便ではありませんでした。トイレは合併処理浄化槽が設置されているし、携帯電話も村内のほとんどの場所で通じます。買物は週末にまとめて済ませることができるし、簡単なものなら近くの商店で揃いました。村内をコミュニティバスが走っており、移動も不便を感じるほどではありませんでした。

小学校は1学年1クラスで、みんなが仲良く、子どもはのびのびと育っていきました。都会で育った自分たちよりも、健康でたくましく、やさしく育っているように感じます。

御杖村に住み始めて1年が過ぎた頃、夫婦に2人目の子どもができました。健診や出産は近隣のまちの産婦人科まで行かなければなりませんでした。周りの協力もあって、安心して出産することができました。また、地域のみんなが「子育ての先輩」として協力してくれました。

子どもが中学3年生になると、高校進学について考えなければならなくなりました。御杖村には高校がありません。一人暮らしをするか、一緒に引っ越すか、御杖村から通学するか。夫婦は子どもに選ばせました。子どもは「御杖村に住み続けたい」と言いました。父親の通勤時に車で最寄駅まで送り、電車やバスを乗り継いで通学することになりました。子どもは3年間、自宅からの通学を続けて卒業しました。

子どもが大学進学のために都会で一人暮らしをすることになりました。自分たちのもとを離れることは不安でしたが、やりたいことを見つけてほしいと送り出しました。

4年後、子どもは御杖村に戻ってきました。農業生産法人で「御杖ブランド」の農産物を開発したいという理由でした。大好きな御杖村をもっと全国の人に紹介し、村も潤ってほしいと考えたのです。下の子どもは高校から村外で一人暮らしをしています。それぞれの選択があつて良いと思いました。

数年後、上の子どもは結婚し、ほどなく孫が生まれました。下の子どもは東京の会社に就職しましたが、毎年お正月にはたくさんのお土産を持って御杖村に帰ってきます。

夫婦は、すっかり御杖村民になりました。退職後の楽しみは孫と遊ぶことと畑仕事、自然環境を守る活動団体や子どもたちの見守りパトロールにも参加しています。長寿の村なので、夫婦は地域の中では「若手」です。地域の課題にみんなで知恵を絞り、汗をかいて取り組むことで、地域が少しずつ良くなっていくことに達成感を覚えます。

御杖村は「杖の村」として密かな人気を呼んでいます。田舎暮らし体験や、農山村・自然体験等、都会の暮らしで不足しているものが御杖村にはあります。また、「御杖ブランド」の農産物もおいしくて安全だと評判になり、インターネット販売を含めて全国に流通しています。「みつえ温泉 姫石の湯」は訪れた人を癒すだけでなく、村民の憩いの場としても賑わっています。伊勢本街道のまち並みは歴史的にもその価値が認められ、村民の協力のもとで保存・活用が進んでいます。村には家族が引っ越してきた頃よりも活気があふれています。

引っ越してきた頃に読んだ広報誌の記事で御杖村のむらづくりについて、こんなことが書いてありました。

『御杖村に3つの杖の魔法をかけます。

- 1つ目は「やすらぎの杖」の魔法。住んでいる人が安心して生活できるようにするための生活環境整備や保健・医療・福祉面などを充実するものです。
- 2つ目は「魅力の杖」の魔法。観光客を呼び込んだり、農林業等の産業を活性化するものです。
- 3つ目は「自律の杖」の魔法。行政組織としての自立と地域の村民の自立、これを合わせた御杖村全体の「自律」に向けた協働を促進します。』

そのときには読み流していましたが、自分たちはそんな魔法に誘われてやってきたのではないかと考えることがあります。同じように御杖村に魅力を感じ、新たに村に移り住む人やUターンしてくる人も増え、今月の広報誌には「人口が増加に転じました」と書いてありました。

子ども夫婦と孫は御杖村の他の家に住んでいるので、夜は夫婦2人で静かに過ごします。

ある日、妻が夫に言いました。「あの時、御杖村に住むことにして良かったね」